

衣

愛知県クリーニング生活衛生同業組合

家庭では難しい クリーニングを積極的に開拓

取り巻く環境の変化

今日のクリーニング業が日本に誕生したのは、明治時代です。愛知県クリーニング生活衛生同業組合が設立されたのは昭和32年（1957）で、当時は、多額の設備投資を必要とせず、経費の大半が人件費であったため、組合員の多くは中小のクリーニング店でした。昭和40年代には愛知県全体で3,000店ほどのクリーニング店がありました。この場合のクリーニング店というのは自前の設備を備えた洗濯をできる店を指し、設備がない取次店も含めると1万店以上に上りました。

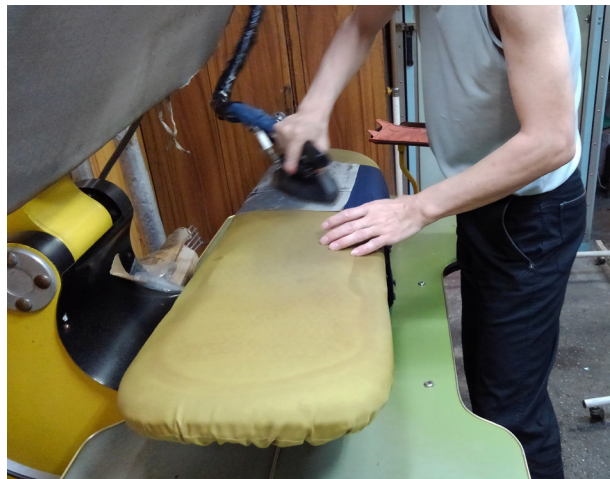
しかし、現在は組合加入のクリーニング店は270店ほどに減少し、取次店が圧倒的に多くを占めています。減少の理由は後継者の問題、ライフスタイルの変化によって、家庭で洗える衣類が増えてきたことなどが挙げられます。

しみ抜き技術のさらなる向上などで需要喚起

業界全体として需要拡大を探ろうと、10年ほど前から力を入れているのが組合員を対象にした「しみ抜き」の講習会です。



ワイシャツなどの仕上げは立体式のアイロンを使用している



機械化が進んでいるとはいえ、細かい箇所の仕上げは手作業で

汚れは水性と油性の2種類に分類できます。水性の汚れはお湯と洗剤で洗うランドリー、油性の汚れは溶剤で洗うドライクリーニングですが、ランドリーでもドライでも簡単には落ちない汚れが意外とたくさんあります。こうした汚れを業界では「しみ」と呼んでいます。しみ抜きで綺麗になったときのお客様の喜ぶ様子は何よりの励みです。

このほか、異なる素材を組み合わせた衣服や色落ちしやすい染料、型崩れしやすく、仕上げが難しいデザインといったものも増えています。

また、衣類に付いている洗濯の絵表示が取れてしまっている場合、素材を見分けて的確に洗うのは一般の家庭では難しいことです。このような衣類などへの対応に取り組むほか、これまでクリーニングに出されなかった、カーテン、シーツ、バッグ、テーブルクロスなどの洗濯の需要などを掘り起こすために努力を重ねています。